

○小牧・長久手の合戦 歴史探訪コース 表示例・バスコース番号：①・停留所名：バ/停

徳川・織田軍 対 豊臣軍 砦跡 (約 5～6 時間)

小牧駅前 バ/停 小牧駅 コース ⑮ バス約 6 分	蟹清水砦跡 バ/停 保健センター前 コース ⑮ バス約 8 分 注：入場料不要	小牧山城 バ/停 小牧市役所前 コース ⑮ バス約 22 分 注：入場料要
---	---	---

岩崎山砦跡 バ/停 岩崎山前 コース ⑯ バス約 16 分 (又は徒歩 15 分程)	味岡駅 バ/停 味岡駅 徒歩 15 分程	小松寺山砦跡 バ/停 小松寺 コース ⑰ バス約 21 分
--	--	--

*詳細なバス停からの時刻は各コース番号の時刻表をご確認ください。

(注) 観光案内所のオープン前に、巡回バスをご利用の場合、観光終了後、観光案内所にお寄り下さい。

バ/停	バスコース番号	時刻 (例) ↓	移動方法 & 時間	観光場所	見学所要時間
小牧駅 発	15	08:00 09:19	バス約 6 分	蟹清水砦跡	15～20 分
保健センター前 着		08:06 09:25	徒歩 5 分程		
小牧市役所前 発	15	09:25 10:40	バス約 8 分	小牧山城	60～80 分
小牧市役所前 着		09:33 10:48	徒歩 15 分程		
岩崎山前 発	16	11:06 12:34	バス約 22 分	岩崎山砦跡	30～40 分
岩崎山前 着		11:28 12:56	徒歩 10 分程		
味岡駅 発	16	12:56 14:24	バス約 16 分	小松寺山砦跡 (小松寺)	15～20 分
味岡駅 着		13:12 14:40	徒歩 15 分程		
小松寺 発	19	14:11 15:27	バス約 21 分		
小牧駅 着		14:32 15:48			



秀吉×家康 唯一の
直接対決に想いを馳せる
小牧・長久手の合戦
歴史探訪コース

所要時間
5~6
時間

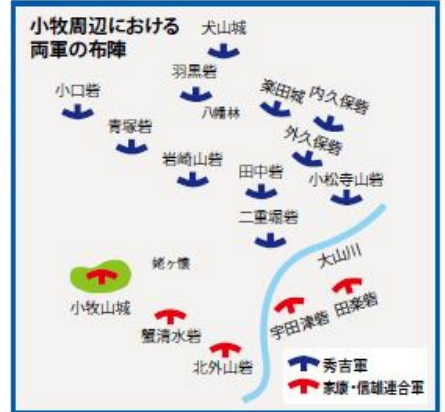
そのほかにも歴史
的なものが

蟹清水砦跡

信長時代の丹羽長秀の屋敷を修復し、家康・信雄連合軍が砦としました



このエリアは木曾街道の小牧宿として栄えたため、江戸時代の史跡が点在しています



観光協会に寄ってね

小牧駅
9:19 発

⑤パークアリーナ小牧・市役所コース
約6分
保健センター前
+ 徒歩5分



保健センター前
10:40 発
約8分
小牧市役所前

小松寺

小牧・長久手の戦いで豊臣方が撤退の際寺に火を付け焼失。その後文禄4年(1595年)に豊臣秀吉から領地を与えられ、再建されました



小松寺山砦跡

羽柴秀吉の方針として築かれ、丹羽長秀・三好秀次と、名だたる名将が布陣を敷いていました

小松寺

⑧北部東部右まわりコース
15:18 発
約3分
味岡駅で乗り換え
⑬岩崎山前
14:24 発
約16分

⑬小牧・味岡西コース
小牧市役所前
12:34 発
約22分

岩崎山前

岩崎山砦跡



小牧山城

天守閣からは、北は金華山、南は名古屋駅が望め、小牧が濃尾平野の真ん中にあることを感じさせてくれます



小牧長久手合戦図屏風のほか、音と映像による解説、立体パノラマなどがあります。館内にはほかにも出土品など多くの資料があります



2階
小牧・長久手の戦いコーナー



県の天然記念物に指定されている「五枚岩」。この場所は小牧山の北側を正面に捉えることができます。また、山裾の石垣は、岩崎の区画整理で発掘された、名古屋城築城の残石で築造されています



五枚岩

小牧・長久手の合戦

天正12年3月、秀吉軍の池田恒興は、犬山城を奇襲して占拠、森長可は羽黒の八幡林で家康勢と戦って敗れた。秀吉は大坂で長可が敗れたことを聞き、直ちに三万の兵を率い、大垣から犬山へ着き戦況を聞いて、小牧山を北東から包囲するよう各武將を布陣させた。そして、みずから楽田に本陣をかまえた。

一方、信雄・家康連合軍は、小牧山に本陣をかまえ、小牧山から東へ連砦を築き、秀吉軍に対した。

蟹清水砦(徳川軍)

蟹清水砦は、織田信長の小牧越しの際には、信長の武將丹羽長秀の居城であったと伝えられる。

小牧・長久手の合戦時には信雄・家康連合軍がこの砦を修復し、交番で守備した。

岩崎山砦(秀吉軍)

岩崎山山頂に設けられた砦であるが、規模は不明。秀吉が小牧山に対して砦を構え、稲葉一鉄・貞通父子等を將として兵四千で守らせた。岩崎山の標高は54.9メートルであり、現在でも、山頂付近からは小牧山周辺を一望にすることができる。

小松寺山砦(秀吉軍)

小松寺山砦には二つの砦があり、西砦は小松寺のあたり、東砦は旧小松寺山一帯にあったとされ、その規模は、西砦は東西八間、南北十間、東砦は十間四方であったと伝えられる。守將は丹羽長秀(長秀の子長重とする説もある)で、八千余兵で陣を敷いた。

